

## カービュー マーケットウォッチ (2011年7月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

前年同月比は21.9%減だが前月比は2カ月連続で大幅増

11年 6月順位	11年 5月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(3)	↑	プリウス	トヨタ	19,429
2	(1)	↓	フィット	ホンダ	16,321
3	(2)	↓	ヴィッツ	トヨタ	12,356
4	(4)	→	セレナ	日産	8,224
5	(8)	↑	マーチ	日産	6,493
6	(7)	↑	カローラ	トヨタ	5,337
7	(6)	↓	ラクティス	トヨタ	5,117
8	(10)	↑	ノート	日産	4,547
9	(11)	↑	デミオ	マツダ	4,312
10	(9)	↓	ステップワゴン	ホンダ	4,130
11	(5)	↓	フリード	ホンダ	3,986
12	(13)	↑	キューブ	日産	3,617
13	(14)	↑	パッソ	トヨタ	3,577
14	(15)	↑	ヴォクシー	トヨタ	3,535
15	(20)	↑	ジューク	日産	3,400
16	(19)	↑	ノア	トヨタ	3,213
17	(12)	↓	ソリオ	スズキ	3,198
18	(18)	→	ウィッシュ	トヨタ	2,861
19	(16)	↓	スイフト	スズキ	2,730
20	-	↑	ラフェスタ	日産	2,672

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

## カービュー編集部独自の分析

### ■前年同月比は 21.9%減だが前月比は 2 カ月連続で大幅増！ 乗用車全体で 09 年の販売レベルに近づく

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した 6 月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は 29 万 4693 台で、前年同月比は 78.1%と 10 カ月連続で前年を下回ったが、前月比は 47.0%増と 2 カ月連続で大きく伸張し、確実に回復期に入ったといえそうだ。販売台数自体も新車購入補助金制度終了（昨年 9 月末）に向け、駆け込み需要に沸いた昨年には及ばないが、エコカー減税などの公的支援策効果が発揮し始めた 09 年の 31 万 9385 台と比べると、同月比で 92.3%に達し、補助金終了の反動減を考えれば、通常レベルまであと一歩のところまで来た印象だ。

輸入車と軽乗用車を除く 3 / 5 ナンバーの国産乗用車（日産マーチ分含む）は 17 万 9447 台で、前年同月比は 73.1%。前月比は 58.0%増と軽乗用車を上回る伸び率となった。メーカーブランド合計では、3 ナンバーの普通乗用車が 1 万 7744 台で前年同月比 117.3%、5 ナンバーの小型乗用車も 2 万 2265 台、同 97.6%とほぼ昨年水準まで回復した日産が今年初めてプラスに転じ、スバルは 3 カ月連続、スズキも 2 カ月連続で前年を上回った。震災の影響で生産が大きく落ち込んだトヨタ、ホンダも前年同月比は 60.6%、67.7%と低調だが、前月比は 79.4%増、41.4%増と回復基調となっている。月間ランキングでは「トヨタ プリウス（α含む）」が 1 万 9429 台で 4 カ月ぶりにトップを奪還、軽を含む乗用車全体でもトップとなった。2 位は 3 カ月連続トップを続けていた「ホンダ フィット」で、フィット含め、トップ 30 圏内ではトヨタでは「ヴィッツ」、「ラクティス」、日産では「セレナ」、「マーチ」、「ラフェスタ」、「エクストレイル」、スバルでは「インプレッサ」が前年同月比がプラスと好調だ。

軽自動車は乗用車部門が 9 万 2348 台で、前年同月比 83.0%、貨物車を含めた全体でも 12 万 6804 台、前年同月比 81.7%と 9 カ月連続のマイナス。前年同月比は乗用車部門で 28.4%増、全体では 33.2%増と回復傾向となり、マツダを除いて 5 月を上回る結果となっている。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでも、2 万 2325 台、前年同月比 111.0%と 3 カ月連続で前年を上回った（日本メーカー製を含めた輸入乗用車全体では 2 万 9390 台、前年同月比 142.8%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が 5501 台で 6 カ月連続のトップ、2 位は BMW（ミニを除く）が 4007 台で 3 カ月連続、3 位はメルセデス・ベンツで 3798 台だった。VW は前年同月比 97.7%にとどまったが、BMW、メルセデスはそれぞれ 15.9%増、10.9%増と前年を上回り、トップ 10 圏内では 5 位ミニ、6 位ボルボが 40.3%増、51.3%増と好調な売れ行きとなった。

### ■ココも気になる！その 1

震災からのいち早い回復で、国内 No. 2 奪取を目指す日産

東日本大震災で栃木工場、いわき工場が被災した日産だが、4 月中旬には生産を再開するなど素早い対応を見せた。5 月末には「ジューク」や「キューブ」の特別仕様車を投入、6 月 15

日にはマツダからの OEM（相手先ブランド供給）車、「ラフェスタハイウェイスター」を発売するなど販売面でのテコ入れ策もスピーディなものだった。その甲斐あって、6月は3ナンバー普通乗用車、5ナンバー小型乗用車計で4万9台、前年同月比 105.5%と前年を上回る回復ぶりとなった。

なかでも好調なのが「セレナ」で、6月は8224台、前年同月比 100.9%で、軽乗用車を除く月間ランキングで2カ月連続の4位を獲得。今年の上半期累計では3万9157台で、昨年「ホンダ ステップワゴン」に奪われたミニバン No.1 の座の奪還に成功した。震災による生産面の影響が少なかったタイ製「マーチ」も好調で、6月は6493台、前年同月比 206.4%。1~6月累計では2万7172台で、前年同期比 132.1%とモデルチェンジ1年目としても快調な売れ行きとなっている。このほか、昨年8月にモデルチェンジした「エルグランド」が月間販売目標の1900台には届かなかったが、6月は1556台、前年同月比 737.4%、「ラフェスタハイウェイスター」は月間販売目標1200台に対し、6月は2350台（ラフェスタ合計では2672台）と好スタートを切った。

そして日産は、11~16年度の中期経営計画「日産パワー88（エイティエイト）」を発表。16年末までに世界シェア 8.0%、売上高営業利益率 8.0%達成を柱とする計画で、今後世界市場に51の新型車を投入するという。昨年は世界市場で408万台を売り上げ、前年比 21.5%増と大きく勢力を拡大。国内でも今年の上半期累計でホンダを抜いて2位となっているだけに、今後も日産の勢いに注目だ。

## ■ココも気になる！その2

メルセデス・ベンツが3カ月連続でプラスと回復基調に

昨年は年間販売台数が3万920台、前年比 107.6%と2年ぶりに前年を上回ったメルセデス・ベンツだったが、東日本大震災により、茨城県日立市の陸揚げ港と新車整備センターが被災。最量販期でもある3月単月で3731台、前年同月比 79.7%と大きく落ち込み、今年も前年同期比 89.9%とマイナスになってしまった。しかし陸揚げ港の変更など物流面の復旧に努め、4月1755台/前年同月比 106.1%、5月2096台/同 101.7%、6月3798台/同 110.9%と順調に回復。1~6月累計では1万5202台、前年同期比 97.8%とほぼ昨年レベルとなっている。

世界市場では好調な売れ行きを続けていて、今年上半期の世界販売台数は61万5331台で、前年同期比は 109.7%と、上半期では過去最高となった。なかでも日本では先日導入された新型「Cクラス」が好調で、地域別では中国 52.3%増、インド 40.3%増、ロシア 70.6%増、ブラジル 34.7%増と新興国が軒並み販売台数を大きく伸ばす結果となっている。

日本市場では1~6月の上半期累計で、Cクラスが5529台/前年同期比 123.0%と売れているものの、「Eクラス」4179台/同 74.5%、「Bクラス」1609台/同 93.4%と苦戦しているモデルもある。ただ今後、新しい「SLK」や「CLS」の納車が本格化することもあり、回復傾向が続くことは間違いない。さらに4月の上海モーターショーで公開された、コンセプトAク

ラスが来年には新型「Aクラス」として投入されるはずで、SUVバージョンも用意されるという次期Bクラスとあわせて、メルセデス・ベンツの動向から目が離せそうにない。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 ([pr@carview.co.jp](mailto:pr@carview.co.jp))

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180

---